

養殖衛生管理体制整備事業*

玉城英信・中村博幸

1. 目的

に魚類養殖業者を対象に名護市で魚病の発生状況について講習会を実施した。

魚病のまん延を防止し、魚病被害を軽減化させるとともに、食品として安全な養殖魚介類の生産を確保し、水産増養殖の健全な発展と養殖漁家経営の安定化に資する。

2. 方法および結果

平成18年度の養殖衛生管理体制整備事業の詳細については水産課に提出していることから、ここではその概要を記する。

(1) 総合推進対策

ア 全国会議

実施時期	場所	構成員	内 容	担当機関
10月20日	東京	都道府県	衛生管理	水産課
3月9日	東京	都道府県	衛生管理	水海研センター

イ 地域検討会

実施時期	場所	構成員	内 容	担当機関
10月26日 ～27日	山口	九州・山口	魚病発生 魚病担当	水海研センター 症例検討

ウ 県内会議

実施時期	場所	構成員	内 容	担当機関
6月16日	那覇	車海老養殖	防疫対策	水産課
8月3日	宮古島	車海老養殖	魚病対策	普及センター
10月25日	那覇	種苗生産	VNN対策	水海研センター
3月14日	名護市	魚類養殖	魚病環境	

(2) 養殖衛生管理指導

ア 医薬品の適正使用の指導

実施時期	場 所	対象人数	担当機関
4月13日	本部町	3	水産課
5月11日	名護市	4	水海研センター
5月22日	本部町	5	普及センター
12月15日	本部町	3	
1月31日	伊江島町	6	
2月19日	宮古島市	6	
3月19日	久米島町	12	
3月28日	石垣市	8	
3月28日	竹富町	2	
3月29日	与那国町	2	
4月～3月	伊平屋村	3	(月1回)
11月～3月	沖縄本島	2	(月1回)

イ 適正な養殖管理・ワクチン使用の指導

医薬品の適正使用の指導と並行して実施した。

ウ 養殖衛生管理技術の普及・啓発

医薬品の適正使用の指導と並行して実施した。

* : 国庫補助事業

エ 養殖衛生管理技術対策

7月11日 三重 KHV講習会
8月28日～9月12日 東京 第2年次研修

オ 養殖衛生管理技術講習会

平成18年6月16日に車海老養殖業者へ耐性菌対策, 8月3日に宮古島でビブリオ病対策, 平成19年3月14日に魚類養殖業者を対象に名護市で魚病の発生状況について講習会を実施した。

(3) 養殖場の調査・監視

ア 養殖資機材の使用状況調査

聞き取り調査を4月～5月に実施した。防汚剤の年間使用量は前年度同様50缶(1缶は180kg)程度で, 化繊網に使用する割合は10%であった。

イ 医薬品残留検査

平成19年1月に宮古島と与那国島のクルマエビ養殖場からサンプルを入手し, 塩酸オキシテトラサイクリンの残留検査を実施した。検体数は各5検体で医薬品の残留はなかった。

ウ 薬剤耐性菌の実態調査

魚病発生時に薬剤耐性試験を実施した。クルマエビのビブリオ病に使用する塩酸オキシテトラサイクリンの耐性菌が1ヶ所、オキシリン酸に対する耐性菌

が5ヶ所の養殖場から確認された。魚類では類結節症に使用するアンピシリン耐性菌が4ヶ所、オキシリン酸に対する耐性菌が3ヶ所の海域で確認された。また、ビブリオ病に使用する塩酸オキシテトラサイクリンの耐性菌が3ヶ所の海域で確認された。ウナギ養殖では平成18年5月にパラコロ病, 鱒赤病, そして赤点病に使用するオキシリン酸の耐性菌とパラコロ病に使用する塩酸オキシテトラサイクリンの耐性菌が1ヶ所の養殖場から確認された。

(4) 疾病対策

ア 疾病監視対策

平成18年4月から平成19年3月に沖縄県内で発症した疾病を監視した。平成18年の4月に沖縄本島の有銘川のニシキゴイとマゴイ, 天願川のマゴイからKHVが検出され, 天然河川でのKHV汚染が始めて確認された。また, 5月には養鯉業者のニシキゴイからKHVが確認され, 焼却処分を実施した。

イ 疾病発生対策

平成18年4月から平成19年3月に持ち込まれた疾病の種類, 原因菌の分離, 薬剤耐性を調べ, 適正な医薬品の使用及び養殖管理について指導した。疾病の診断件数は288件で前年の190件より増加した。